

めぐみイエス・キリスト教会

2024年2月4日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第694号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌266「罪咎を赦され」 p. 418

【交読文】 No.39 詩篇第122篇 p. 911

【賛美Ⅱ】 新聖歌284「ひたすら求めよ」 p. 453

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となる為に」

【聖書朗読】 ルカの福音書4章1節～4節(新約p. 115)

【礼拝説教】 《悪魔の試み(そのⅠ)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 (ルカの福音書4章1節～4節)

4:1 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。

そして御霊によって荒野に導かれ、

4:2 四十日間、悪魔の試みを受けられた。その間イエスは何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。

4:3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」

4:4 イエスは悪魔に答えられた。「『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」

●ポイント1.「マルコにおける平行同一記事」から

※マルコの福音書1章9節～13節「バプテスマの後」(新約p.65下段)

1:9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレからやって来て、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられた。

1:10 イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。

1:11 すると天から声がした。「あなたは私の愛する子。私はあなたを喜ぶ。」

1:12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。

1:13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの試みを受けられた。イエスは野の獣と共におられ、御使いたちが仕えていた。

●ポイント2.「40日間」とは？

※創世記7章11節～12節「ノアの箱舟」(旧約p.10下段)

7:11 ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、大いなる淵の源がことごとく裂け、天の水門が開かれた。

7:12 大雨は四十日四十夜、地に降り続いた。

※出エジプト記34章28節「シナイ契約」(旧約p.163上段)

34:28 モーセはそこに四十日四十夜、【主】と共にいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、石の板に契約の言葉、十の言葉を書き記した。

●ポイント3. 主イエス様の引用された聖書箇所とは？

※申命記8章3節「モーセによる神の言葉」(旧約p.329下段)

8:3 それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべての言葉で生きるということ、あなたに分からせるためであった。

◎先週の礼拝メッセージ【約束】

《主イエスは、最後の晩餐において、弟子たちに約束されました。「私はあなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたの所に戻って来ます。」その言葉の通りに、十字架から三日目によみがえられ、復活されたその日に、弟子たちが潜んでいたヨハネ・マルコの家の二階の大広間に現われ、まさに戻って来られたのです。そして、この約束は再臨をも預言しており、主イエスは再び、この地上に来られます。

かつて神様は、アブラハムに約束され、そしてご自身に誓われたことがありました。そのことについて、ヘブル人への手紙の著者は、『神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。』と、言っています。

このことから、神様が約束を守られるお方であることが分かります。すなわち神様が一度約束された事は、必ず成就するということです。

しかし、その「約束のもの」を手に入れる為に必要なものは、忍耐であることを、ヘブル人への手紙の著者は、私たちに教えています。

アブラハムも忍耐したのです。そして、忍耐の末に約束のものを手に入れたのです。それゆえ、アブラハムは信仰の父と呼ばれました。「あなたがたが神のみ心を行なって、約束のものを手に入れる為に必要なのは、忍耐です。」忍耐とは、信仰によって、待ち望むことです。

ヘブル人への手紙の著者は、『信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならぬのです』と、証ししています。私たちは、今も生きておられ、永遠に変わらないお方、主の主、王の王なるお方、イエス・キリストを信じる者なのです。》

お知らせ

※次回は2月11日(日)となり、通常通り午前10時から行ないます。